

令和 6 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	中学 2	学校名	県立太田第一高等学校附属中学校						課程	一		学校長名				谷津 勉				
教頭名	[全日制]茂又 孝裕				[定時制]塩谷 直人				[附中]小濱 靖彦				事務（室）長名				横山 弘実			
教 職 員 数	教 諭	10	養 護 教 諭	1	常 勤 講 師	1	非 常 勤 講 師	2	実習教諭、実習講 師、実習助手		0	事務 職員	5		技術 職員 等	10	計	29		
生徒数	1 年				2 年				3 年				合計				合 計 クラス数			
	男		女		男		女		男		女		男		女					
	19		21		20		20		20		20		59		61		3			

2 目指す学校像

グローバルな課題の解決に挑む力、持続可能な社会づくりに貢献できる力を育む学校

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	- 学習における理解度に個人差が見られ、習熟度や少人数など、生徒一人一人の理解度に応じた支援・指導が必要である。 - R5 生徒による授業評価（「この授業を通して、知識や技能（技術）が身に付いた。」（R5 附属中全体の評価平均 3.6）、「この授業を通して、考えたり表現したりする力が身に付いた。」（R5 附属中全体の評価平均 3.5） - R5 保護者アンケート（教員はわかりやすい授業を展開していると聞いている。）82%	少人数指導や習熟度別指導を実施するにあたり、生徒一人一人の実態を把握した上で、生徒の理解度に応じて、適切な個別指導体制・学習支援体制を構築すること。
進路指導	- キャリア教育を通して、自己の可能性を発見し、将来の夢に向かって今の自分に必要なことを考え、判断し、実践していく力をつけることが必要である。 - R5 保護者アンケート（教員は、将来の進路や職業について、生徒たちが考える機会を設けている。）83%	キャリア教育の指導方針の改善・充実を図るとともに、職場体験学習や「未来の自分発見講座」等の機会を通して、実践的・体験的な活動の充実を図ること。

別紙様式 1 (中)

生徒指導	・SNS 等で友達とトラブルになり、教師の介入が必要なケースがある。R5 保護者アンケート（教員は生徒の悩みの相談にのっている。）80%	・SNS 等で起こりうる生徒指導事案を具体的に指導するなど、問題行動の未然防止及び早期発見・対応に努めること。 ・特別支援コーディネーターを中心に、特別な支援を必要とする生徒への理解と指導体制の充実を図ること。
特別活動	・文化祭などの行事の中で、生徒会が主体となって取り組む姿が見られる。一方で、高校の生徒会や地域と連携して、附属中の生徒のアイディアを生かした生徒会活動を展開することが可能である。R5 保護者アンケート（学校の行事は、生徒主体で行われており、活発である。）93%	・生徒会活動の充実を通して、自治的能力や主権者として積極的に社会参画する力の育成に努めること。
働き方改革への取組	・教職員の意識は向上しているが、年間を通して月の超過勤務の合計を 45 時間以内に抑えられない教員がいる。	・分掌を見直し、業務の平準化を図り、組織として機能する体制を整える。また、業務の効率化を図り、教職員の心と体の健康を維持しながら勤務できる環境をつくること。

4 中期的目標

(1) 5 年目を迎えた中高一貫教育校の特長を活かし、中高連携の強化と 6 年間を見通した教育課程に基づく深い学びの実現に努める。 (2) ねらいを明確にして I C T を効果的に活用することで、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を推進する。 (3) 探究を軸とした学びのスタイルの質を高め、課題解決能力の向上に努める。（探究を軸とした学びの推進） (4) 心の教育と体験活動を大切にして、豊かな人間性と自主性・自立性・自発性の育成に努める。 (5) 様々な体験活動を通して、グローバル社会で活躍するための資質・能力を育成する。 (6) 予測困難な社会に目を向け、他者と協働しながら、主体的に諸課題を解決することができる資質・能力を育成する。（シティズンシップ教育の充実） (7) 多様性を受容し、グローバルな視野で思考・表現・判断できる資質・能力を育成する。（ダイバーシティ教育の推進） (8) 協力して取り組む体制を整え、業務の効率化を進め、生徒一人一人に寄り添う指導の実現に努める。

5 本年度の重点目標

	重点項目	重点目標
(1)	・知識・技能の確実な習得を図るための繰り返し学習の充実 ・指導の個別化と学習の個性化を図った指導の充実	・小テストや学習アプリ Qubena を活用した学習理解度の把握と個に応じた指導を実践する。 ・学習内容の習熟度に応じた学習。少人数指導等の充実 R6 生徒による授業評価（「この授業を通して、知識や技能（技術）が身に付いた。(3.7)」(R5 3.6)、「この授業を通して、考えたり表現したりする力が身に付いた。(3.6)」(R5 3.5) 保護者アンケート（教員はわかりやすい授業を展開していると聞いている。）85.0% (R5 82%)
(2)	・教育活動のあらゆる場面で、コミュニケーションの場や体験的な学習の重視 ・教育活動のあらゆる場面で、自分の考えを伝える場の設定	・「探究プロジェクト」や「中高連携活動」を活用し、他校の生徒や高校生・異学年の生徒たちとの意見交換による課題解決を体験する。 ・様々な活動において、生徒同士で話す・伝える場を設定し、自分の考えを伝えることができる。 生徒アンケート（教員は、生徒同士で話し合ったり、教員に質問したりする機会を設けている。）100% (R5 97%)
(3)	・生徒の主体性を生かした探究的な学習の充実 ・「輝け！私たちの未来 探究プロジェクト」の機会を通して、総合的な学習の時間の指導方法の工夫	・すべての授業において、年間を通して探究的な視点を取り入れた授業を実践する。 ・他の学校の生徒の発表を通して、指導方法改善のヒントを得る。 ・各教科における生徒の授業満足度 90%を目指す。 生徒アンケート（教員は、生徒が課題を設定し、議論し、解決策を考える時間を設けている。）95% (R5 93%)
(4)	・学習のねらいに応じた I C T の効果的な活用	・各教員がそれぞれの授業において、ICT を意図的・効果的に活用することにより、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を推進する。 生徒アンケート（教員は、タブレットや I C T 機器を活用して、授業を工夫している。）100% (R5 97%)
(5)	・日常に英語に触れる機会の充実を通して、実践的な英語コミュニケーション能力の育成 ・中学校 3 年間の段階的な異文化理解体験を通して、国際教育の推進	・中学 3 年終了時点で、英検準 2 級相当の生徒の割合 50%を目指す。(R5 45%) ・東京グローバルゲートウェイ（中 1）、ブリティッシュヒルズ（中 2）、オーストラリア海外留学体験（中 3）の経験を通して、英語力とコミュニケーション能力の向上を図り、異文化理解を深める。
(6)	・1 か月平均超過勤務時間数の削減	・協力体制を再構築し、業務の効率化を推進するための具体的な方策と工夫を行うことにより、1 か月平均超過勤務時間数を全職員が 45 時間以下にする。100%